

隠れて現は
れざるなし
大に實
力を練れ

たなら自分の名を社會に知らしむることが出来ようかと、
其の事ばかりを苦心してゐる。而して出なくともよい所へ
飛び出して、頼まれもせぬ事を喋舌りたがる、人の邪魔にな
らうと人の迷惑にならうと構はない、唯自己を宣傳しよう
とするのであるが、其の愚や誠に及ぶ可らざるものがある。
人が名譽を欲するのは決して悪いのではない、併し其の
名譽たるや堂々實力を以て獲得したるものでなくては駄
目である、つまり空名には何等の價値なしである。其の野心
は須らく大なるを要する、天下を征服せんとする程の慨あ
るを要する。而して、大いに名を揚げんと欲するも宜しい。併
し、其の爲めには、徒らに名を揚げる手段方法のみを考へず

に、先づ根本的の實力を養成す可きである。代議士になるも
よろしい、而も其の代議士が何等實力もなきに、自己の名を
賣らんが爲めに急にして議政壇上に暴行を働いたり、政變
の際に用も無きに徒らに黨首を訪問し、玄關の次ぎの間で
書生と相談をして來て、其の黨首と會見したるが如く新聞
へ書いて貰ふやうなのは愚の骨頂である。實業家にしても、
官吏にしても、然りである。唯名を賣るに急なる人にして、名
をなしたる人はない。隠れて現はれざるなしの古言の如く、
内に實力あれば、必らず現はるゝの時が來るものであるか
ら、眞の名譽を得んと欲するものは、須らく實力を養ふ可し
である。

逆境逆用法

逆境必ずしも
も逆境ならず

言志晩録に「人の一生には順境あり、逆境あるは消長の數なり、怪しむべきものなし、余又自ら檢するに順中の逆あり、逆中の順あり、宜しく其の逆に處し、敢て易心を生ぜざるべし、其の順に居り、敢て情心を作さざるべし、唯、敬の一字、以て逆順を貫く可きなり」といふことがある。逆境必ずしも逆境ならず、順境必ずしも順境ならず、世人の見て以て幸福なりとする人も、其の當人に尋ねて見ると、案外つらい生活であると云ふ。試みに天下に名をなして居る人の内幕を覗いて見ると、案外の事が多いものである。

實際社會的
に活動して
居る日本の
富豪

故安田翁の
活動力

天下の大富豪と云へば直ちに三井、岩崎を聯想する、彼等は萬人羨望の的である、併し彼等に何の幸福があるであらうか。試みに先づ三井に就て見るに、實際に三井の事業を運用して居るものは三井某でなくして大番頭連である、今日の言葉で申す重役連である。而して三井何右衛門等の一族は、唯あてがひ扶持の月給を貰ふ丈けなのである。事業上に一言でも口を出すことさへ出来ない、唯番頭等に一切の切り盛りを任せて「あなたは御主人で、エライお方であるから奥の方に控へてお出でなさるがよい」と云はれて、月給を貰ふて居る丈けなのである。安田翁などは最後の日まで實際に自分の事業に參與した人であるから之れは又、一寸別の

世界で一番不幸なのは岩崎だ

リンコルンは幸福者か不幸者か

趣きがあるが、三井一族などは若い時から樂隱居で、別世界に幽閉されて居るやうなものである。であるから彼等は謠曲をやるとか、芝居を見るとか、新しい犬でも蓄つて見る位の所で、眞の愉快など云ふものは一つも味ふことが出来ないのである。三菱の當主岩崎小彌太男が「自分でして見たい仕事も澤山あり、社會に對して奉仕して見たい事もあるのであるが、何しろ斯う束縛されて居たのでは思ふ事も出来ない、世界で一番不幸なものは岩崎だ」と云つたと傳へられてゐる。滿更の虚言でもあるまいと察せられる。

美人必らずしも幸福ではなく、醜婦必らずしも不幸ではない、學問をした人必らずしも幸運ではなく、小學校さへ卒

業せぬもので幸福なのがある。立志傳中の人物とされてゐるリンコルンの如きも、暗殺された時には全米國民の哀惜の的となつたものであるが、非常な貧乏家に生れ、靴一足買ふことさへ出来ず、學校にも行かれず、書物を買ふ金がなく、たつた一冊のワシントン傳を借りるのに數里の先まで行つて、讀めぬ字があつても教へて貰ふ人もなく、字引を引かうとしても其の字引さへ無かつたのである。故に、今の多くの人の見てゐる標準でリンコルンを見るならば彼も亦不幸であつたかに見える。

要は、逆境を轉じて幸福となす所に眞の愉快があり、眞の幸福があるのであると思ふ。假りに、リンコルンの場合に就

人生眞の幸福

て見るに、彼れが若しも尋常人であつたならば、先づ學校に行くことが出来ないと言ふことに失望したかも知れない、其の日のパンにも差支へると言ふ事に不平を抱いたかも知れない、そして一生を自暴自棄の中に送つたかも知れない、併し、斷乎として幾多の困難に打ち勝つて、堂々新境地を開拓して行つた所に、リンコルンの偉大さがあり、亦其處に幸福があつたのであらう。

此の吉川の如きも二十萬、三十萬の富を擁して、したい放題をして居た時には何の愉快も無かつたので、其の七轉八起中に、あらゆる困難と戦つて前途の光明を認めて、猛進して行く所に、眞の愉快を體驗することが出来たのであつた。

逆境逆用法

吉川の所謂、逆境逆用法とは即ち其の男性的の戦ひを云ふのである。

昔時、歴山大王が世界を征服した時に、仰いで天に輝く明月を望み、「予は何故にあの月の世界まで遠征することが出来ないのか」と泣いたと云ふ滑稽な話のやうであるが、其の意氣や壯なりと云ふ可しである。人の意氣や須らく壯なる可し、而して一難到る毎に愈々益々其の意志を強固にして、之れを征服して行く、男子之れより痛快なるはないのである。

人の意氣や須らく壯なるべし

信念の涵養

生命を投げ
出して信仰
せよと説く
豊竹呂昇

此の頃引退した豊竹呂昇は常に人に語つて「自分は信仰心の無いものはお弟子に取りません」と云つた、呂昇の前に呂昇なく、呂昇の後に呂昇なし、と云はれてゐる一代の名人は案外にも熱心なる基督教徒であるから面白い。彼の女は、神様でも佛様でもよろしい、何でもよいから熱心に信仰しなさい、生命を投げ出して信仰しなさい、と弟子を戒めてゐるのである。

難事業に直
面して湧
きた吉川
の起
信仰心

吉川も最近迄は信仰心と云ふものを持つては居なかつたのであるが、自分は今後貯金一新匿名組合に據り、大いに民衆の爲めに戦はねばならぬと思つた時に、而して其の責任の重大なるを痛感した時に、湧然として神を信ずるの念

天地神明に
誓ふ

が湧いて來たのであつた。貯金一新匿名組合の事業は財界に普選を斷行するものである、民衆に希望と幸福とを齎すものである、貧富兩階級を握手せしめて共存共榮の趣旨を徹底せしむるにある、世界の新經濟組織を樹立するにある、と思つた時に、而して一個白面の吉川が此の難事業に直面してゐると思つた時に、不思議にも自分には神の力を借りようと云ふ念が起つたのである。併し、自分は由來信仰には縁の遠いものである、唯、自分の妻が年來熱心なる水天宮の信者であることを想ふて、自分も一つ水天宮を信じようと云ふ事になつたのである。要するに、自分の考へでは、天地神明に誓つて此の光輝ある事業の遂行を期さうと云ふにあ

る、宇宙は大にして人間は小である、天地の間には人間の如何ともなす能はざる靈力がある、此の宇宙の大靈力と共鳴する所に、偉大なる信念が發するので、此の共鳴たるや、不正不義の徒の企て及ばざる所である、至誠は以て天に通ずべし、と云ふのが吉川の信念なのである。

我が組合の創業時代の多難なりしは素よりである、今日こそ五萬や十萬は大金と思へないが、自分が最初に投じた五萬圓を費し盡しても猶、此の大業は天下の認むる所とならない、此の光輝ある事業に参加して來るものは誠に寥寥たるものであつた。其の時、自分並に幹部のものが一夜、手を拱いて考へてゐると偶々、一人の紳士が訪れて來て、受取證

想起する多
難なりし本
組合創業時
代

無名紳士の
熱情に感激
す

も取らずに三千五百圓の石川島造船所社債を投げ出して行つたのであつた、茲に於て幹部一同、大いに激勵せられて更に熱烈なる活動をなし、以て今日の基礎を据ゑたのである。其の翌日、自分は其の共鳴者を府下の邸宅に訪れて謝意を表したのであるが、其の人は極めて手輕に「あなたの熱情に動かされたのである、彼の金は失くしても構はないから、精々熱心にやつて御覽なさい」と云はれたのであつた。如何なる困難の來るも頑として動かさず、苦痛の深刻なれば深刻なるほど勇氣の倍加する吉川も、此の共鳴者の同情ある一言には、思はず熱涙に咽ばざるを得なかつたのであつた。自分はその時以來、至誠は必ず天に通ずることを信じ、愈々

信念を強固にして一身を犠牲にして、社會の爲めに奉仕しようとするの決意を強めて行つたのである。

不平は不成功の本

職業に對して不平を云ふものに成功した例はない、自分には是々の手腕があるのに、こんな所に使つて、社長は適材を適所に用ふと云ふ事を知らぬ男だと不平を云ふ、誰は百圓の月給であるのに俺は七十圓ぢやないか、不公平にも程がある、と不平を云ふ。併し、そんな男に限つて大した手腕はないものである。秀吉は信長の家來であつた時に、信長の爲めに草履を懷中に入れて温めて居たと云ふ、彼れは草履持

一分に安んじ
働け
心不亂に

としても理想的の草履持であり、若黨にすれば理想的の若黨であり、大名にしても理想的の大名であつたのである。此處の呼吸を心得たものでなくては決して立身出世が出来るものではない。給仕であれば立派な給仕であるがよい、事務員であれば其の事務を立派に取りさばいて行けばよい、上のものから意見を徴せられるならば立派に意見の立つやうな男になつて見るがよい、其のやうな人間でなくては決して成功するものではないのである。

一番大切なことは自分の今任せられてゐる仕事は何かと云ふ事である、仕事其れ自身を理解してゐなくては、勞力や頭を無駄に費して効果はないものである。自分の仕事は

自分の仕事
に對し熱心
に、常に研
究を怠るな

善因には必ず善果が酬わられる

是々の性質のものである。故に、斯うすれば是れ丈けの効果
が上がる。故に、自分は是々の事をせねばならぬと、研究的に
やつて、而も着々と指揮者の命令を奉じて行くやうな人間
であれば將來必ず重任に就くことが出来るに相違ない。
世の中は妙なもので、月給が低いと不平を云つてゐるや
うな男には、月給は上げてやりたくないものである。唯黙つ
て兀々と自己の命ぜられた仕事をやつて居るものは見棄
て、は置けないもので、黙つて居ても月給を上げたいやう
な気分になる。之れが上に立つものに共通の心理状態であ
る故、徒らに金ばかり欲しがつて仕事を忠實にやらぬもの
の、擡頭す可き機會は無いのである。

毎日己れの言行を反省せよ

讀書と反省

まだ修身訓を述べて行けば、數限りもない事であるから、
此邊で止めて置く事にしようが、青年諸君の爲めに、云ふ迄
もなく讀書も必要である。殊に、英雄偉人の言行録、聖哲の遺
したる修養書なども、日常活動しつゝある僅かの餘暇を以
て閱讀するがよい。又、僅かの時間でもよろしいから自分の
やつてゐる仕事を、時々靜かに反省することも必要である。
出来るならば毎晩就眠前の數分間を割愛して、其の一日の
出來事を反省し、自分の信ずる神に奉告するもよい。更に、明
治神宮なり、伊勢大廟なり、水天宮なり、夫々の神々に對し、よ

し其の場所に行かずとも朝夕夫々の方向に向つて遙拜祈願するやうにするが宜しいと思ふ。

共働一新學校教科書終

大正十四年七月十日印刷
大正十四年七月十五日發行

非賣品

著者 吉川長之助

東京市麴町區紀尾井町三番地

印刷者 甲田藤太郎

東京市麴町區紀尾井町三番地

印刷所 東京印刷株式會社麴町出張所



東京市京橋區館屋町十二番地

共樂社

振替東京七七八八番
電話銀座二六六〇番

發行所

終

